

vol. 2330

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL/(097)556-2838 FAX/(097)556-8998 MAIL/ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に入れて徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 退職予定者集会・慰労会
- 臨時・非常勤教職員のつどい/就労支援説明会
- 第46回九協 2.11平和教育研究集会
- 教員採用試験対策講座
- レクリエーション報告 ~大分工業分会~

退職予定者集会・慰労会

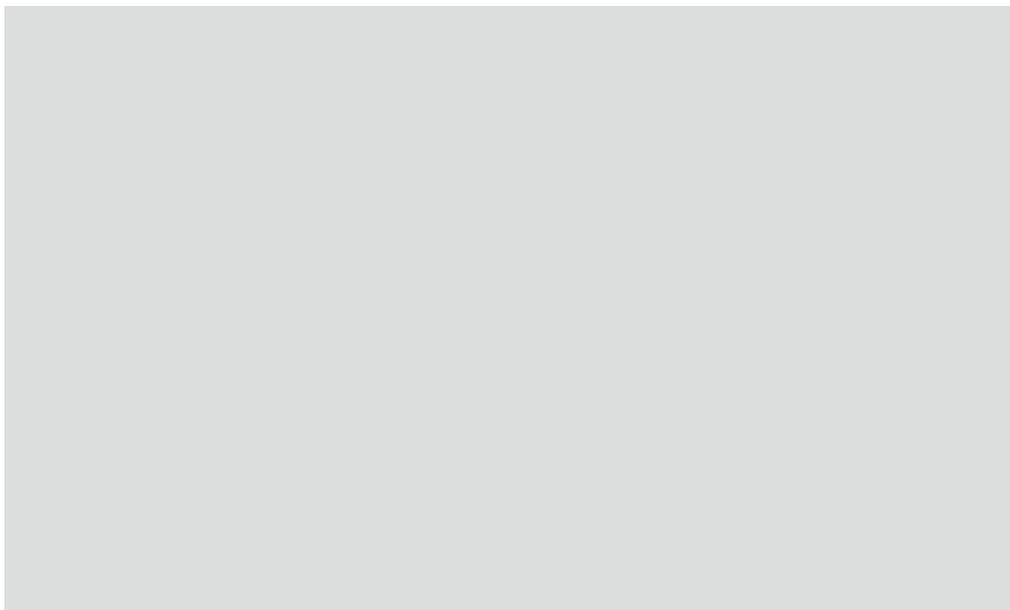
とき 3月8日(土) ところ ソレイユ

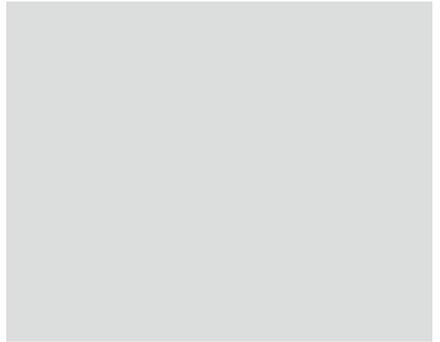
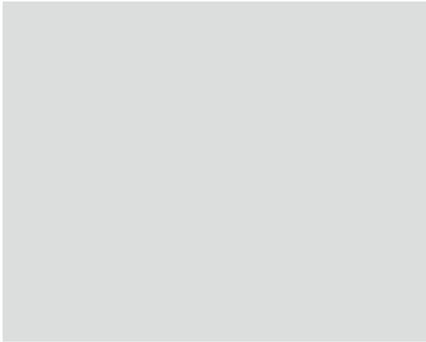
3月8日(土)に、24年度末に退職する組合員を対象に退職予定者集会を開催し、14人の退職予定組合員が参加くださいました。

集会では、梶原悟高退教会長をはじめ、来賓の方に挨拶をいただき、大野委員長が一人ひとりに感謝状と記念品を贈呈しました。退職予定者を代表して、谷口博昭さん(竹田分会)より、あいさつを頂きました。これまでとりくんできた活動、仲間の大切さなどについて語っていただき、改めて高教組の大切さを実感できました。後半では、教職員互助会・教職員共済・ろうきんから、退職時の手続き等についての説明がありました。

集会の後、慰労会を実施しました。一人ひとりから、これまでの教職員生活、組合の思い出、これからの生活について語っていただきました。退職後の進む道はそれぞれですが、お互いに4月からの生活を励まし合いながら、楽しい会も終了しました。

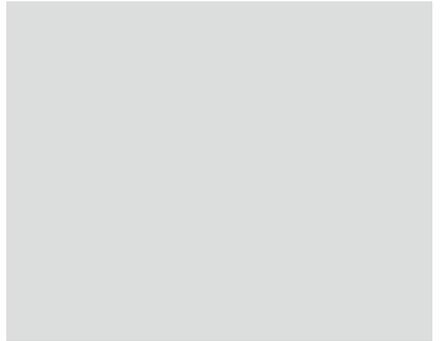
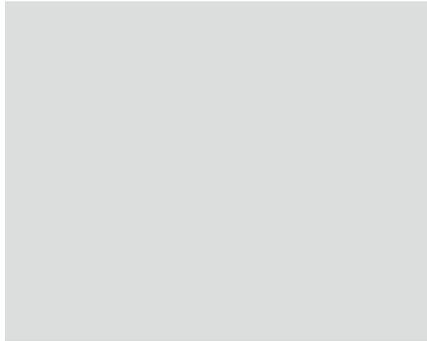
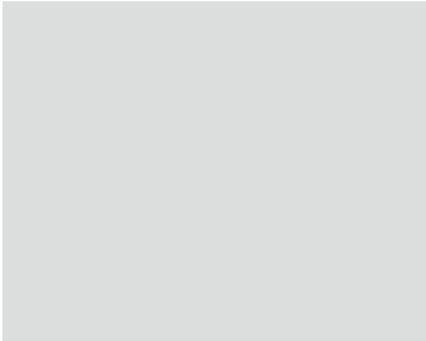
これまでの高教組運動へのご協力に深く感謝いたします。これからのご健勝とご多幸をお祈りいたします。今後も、お元気でお過ごしください。





記念品・感謝状

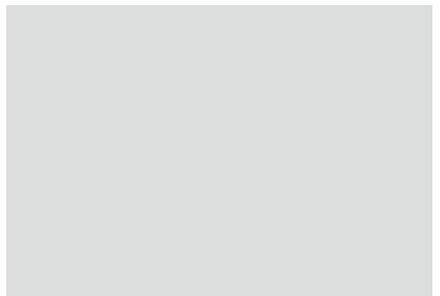
谷口博昭さんあいさつ



《参加した皆さんからのメッセージ》

学校の枠を越えた高校生と青年部の「サマースクール」や「高校生会議」など、高教組が主導のとりくみがかつてはありました。今は官の行事が増えてきましたが、みなさん楽しめているのでしょうか。学校の枠を越えたとりくみをいろいろとやっていたら、高教組の代表としてスイスのジュネーブで開催された「子どもの権利条約」に関する会議にも参加させていただきました。すべてがよい経験でした。ありがとうございました。

(大分西分会 阿部 齊)



採用2年目の4月よりお世話になり、あっという間の38年でした。教師としてこれといって優れたところもない自分が、現在まで仕事を続けられたのは、「高教組」という心の支えがあったからこそです。気力と体力の続く限りは、暫定再任用（フル）で現場に残りたいと考えております。組合員としてもポンコツでしたが、支援を続けてまいります。ありがとうございました。

(日田定時制分会 江藤 恵美)

大学を出て1年目の10月に高教組に入りました。青年部時代は様々な行事に参加させていただき、知り合いを増やすことができました。また、高教組に入ったからこそ教育問題などに関心を持ち、知ることもできました。全国教研にも行かせていただきました。一人ではできない経験もさせてもらいました。確かに組合費は高いですが、充分もとをとらせてもらったと思っています。とはいっても、まだやめられないので、これからもよろしくをお願いします。

(竹田分会 谷口 博昭)

高教組を通じて色々な経験をさせてもらいました。ボウリング大会や高教組フェスタ（昔は「新しい仲間を迎える会」といっていましたね）、とても楽しかったです。遊んでばかりじゃないんですよ。県教研、さらには全国教研にも何度か参加させてもらい他県の状況など知ることができました。余談ですが、埼玉(?)での全国教研で夕方、伊藤洋敏先生とボウリングをしてホテルに向かっていると、通りすがりの人から「近くにボウリング場ありますか?」と聞かれ、道を教えてあげたのもいい思い出です。

沖縄平和行進に参加して、全国から集まった仲間と米軍基地周辺をデモ行進した時には、基地の大きさを実感しました。

東日本大震災から5ヶ月後の8月には、日教組「教育ボランティア」に参加のため福島へ。福島駅から教育会館目指して歩いていると、「植田先生」と呼ぶ声。福島県で誰が私を?と思い振り返ると工藤央彦先生が。大分高教組からは私たち2人が参加でした。活動内容は、避難している子どもたちとその家族に蔵王での屋外活動をサポートし、避難所では、子どもたちとかくれんぼなど一緒に遊びました。子どもたちの笑顔を見た時に少しは力になれたかなと思いました。

組合活動を通じて多くの人との繋がりをもてたことは本当に財産です。

4月から再任用で働く予定なので、組合活動にも引き続き参加したいと思います。もうしばらくの間、皆さんどうぞよろしくをお願いします。

(情報科学分会 植田 茂樹)

組合活動をする中で、たくさんの仲間と出会うことができました。そして、様々な学びを得ることができました。ありがとうございます。また、私は人権・同和教育に長年かかわってきましたが、子どもと向き合うこと、保護者とつながること、他の先生方の応援などで、方法論を超えて、みんなできに考えていくことの大切さをつくづくと感じました。戦争と差別をなくしていく教育の実践活動を是非続けてください。〈継続は力なり!〉です。感謝!

(高田分会 渡来 幸博)

長い間、ありがとうございました。
これからも、お元気にお過ごしください。

臨時・非常勤教職員のつどい／就労支援説明会

とき 2月8日(土) ところ 教育会館

「臨時・非常勤教職員のつどい／就労支援説明会」を開催しました。今年度は、土曜講座と日程が重なってしまったことなどもあり3人の参加となりました。

就労支援説明会では、人事異動期の日程や留意点を説明しました。特に、「勤務時間」・「賃金」・「休暇」等の勤務労働条件については、必ず文書で確認するように伝えました。臨時・非常勤教職員のつどいは、日頃困っていることや悩み等について話し合いました。

来年度より臨時的任用職員の皆さんも「子の看護休暇」が「家族の看護休暇」になるなど、交渉を重ねることで臨時・非常勤教職員の待遇改善を勝ち取ることができています。高教組は、これからも臨時・非常勤教職員の待遇改善にむけてとりくんでいきます。

第46回九協 2.11平和教育研究集会

とき 2月10日(月)・11日(火) ところ 久留米市

「第46回九協 2.11平和教育研究集会」が開催されました。この会は、毎年2月11日に、「憲法・『子どもの権利条約』の理念の実現をめざして、社会的合意形成を図りつつ、教育改革運動をすすめるとともに、平和・人権・環境と民主主義を守る運動を積極的に展開していく」ことを目的として行われています。

大分高教組からは、三重総合分会の仁木史絵さんが、「高校生平和大使・高校生一万人署名活動をとおして考えたこと」と題して、レポート報告しました。

《参加者の感想》

○2月10日(月)・11日(火)に、久留米市で開催された「九協平和集会」にレポーターとして参加しました。元沖縄県教組中央執行委員長の「命どう宝、歴史は繰り返す～沖縄の歴史と現状から何を学ぶか」の全体講演の中で、「第二次世界大戦で、政府や軍は誰もアメリカに勝つなんて思っていなかった」という言葉を聞き、あの戦争は一体何だったのかと思いました。命を散らした特攻隊が、毎日接している生徒たちと重なりました。また、憲法99条についても学び、今後も自信をもって平和教育・平和活動を進めていこうと決めました。分散会では、私は「高校生平和大使・高校生一万人署名活動をとおして考えたこと」をテーマに、大分での平和活動や、スイス派遣に同行して感じたことを発表しました。多くの質問も受け、全国各地で頑張っている高校生の姿を伝えることができました。今後も、信念をもって活動をしていきます。

(三重総合分会 仁木 史絵)

○久しぶりの参加でした。小学校（特に大分県）では平和教育を熱心にとりくんでいるのに、中学校や高校につながっていないと思いました。人権学習HRで指導者が「間違ってもいいので自分の意見を出し合いましょう。正しい答えは無いと思います」といったことに違和感を感じていました。全体会講師の山本さんが「教え子を再び戦場に送るな」は正しいといったことには共感しました。

(三重総合分会 吉岡 賢二)

○第4分科会に参加しました。高校生平和大使の活動に被爆二世・三世として親子でかかわっている熊本県の青木先生の報告がとても印象に残りました。その中で紹介されたアウシュビッツ・ミュージアム館長がドイツの若者に対していった「君たちに戦争責任はない。でもそれをくりかえさない責任がある」という言葉に感銘を受けました。全体講演から分科会を通して沖縄県の現状を聞く限り、今は「戦後」ではなく「戦前」であるという実感が伝わってきました。

(佐伯鶴城分会 安部 憲毅)

教員採用試験対策講座

とき 3月9日(日) ところ 高教組研修所

「教員採用試験対策講座」を開催しました。採用試験が6月に開催されるようになったことを受け、3月からの開催としました。今年度も好評を得ているTAC株式会社の授業を視聴する形式です。第1回の今回は「教育原理」についての講座でした。年度末、急遽の呼びかけとなったこともあり、参加者は4人と少数でしたが、参加した方からは、今回も好評を得ています。4月（「教育法規」）、5月（「教育時事」）も開催予定です。

大分高教組は、これからも教職員を目指すみなさんを精一杯支援します。

《参加者の声》

- 範囲の広い教育原理について要所を限定して教えてくれるので、とても参考になりました。また、資料においては、年代別に改定されたことや人物名を分かりやすくまとめた箇所があり、単語カードを早速生かしてみようと思います。
- 幅広い内容から厳選して、おさえるべきところを教えていただいたので、これからの勉強もしやすくなりそうだと感じました。良かったです。
- 教育原理はとても幅広く、何をどうすればいいか決めあぐねっていたので、今回のような勉強するべき部分、その勉強法を教えていただけるとはとてもありがたいです。
- 1年ぶりに教職の学習だったので、とてもよい刺激を受けた。教育原理は範囲がとても広く、どこから勉強すればよいか難しいので、今日の講座の中でポイントを聞くことができたので、とても身になった。また、採用試験に向けてのモチベーションが上がった。

レクリエーション報告 ~ 大分工業分会 ~

1. はじめに

今回の旅行は、職場の親睦を深めることを目的に企画しました。参加者は4人と少人数でしたが、内容は非常に充実しており、有意義な時間を過ごすことができました。また、普段の業務ではなかなか話す機会の少ない先生方とも交流し、学校の課題について語り合う貴重な場となりました。

2. 旅行の概要

姫島は自然と歴史が豊かな島であり、今回の旅行では、食事・学び・観光の3つの観点から楽しむことができました。特に、「姫島車えびしゃぶしゃぶフェア」の期間中であつたこともあり、新鮮な車海老をリーズナブルな価格で堪能できました。車海老のフルコースは非常に美味しく、参加者全員が大満足の食事となりました。

3. 学校の問題についての議論

食事をしながら、学校の現状や課題についても話し合いました。その中で、土木工学の専門家である小笹先生からミニ講演をいただきました。特に、過去に全国的に流行した「海砂をコンクリートに混ぜる工法」が学校建築に及ぼした影響についての話は非常に興味深いものでした。この工法で建てられた学校の耐久性の低さが問題となっており、実際に羽室台高校に勤務していた先生からは「自校の建物もその影響を受けていた可能性がある」という話がありました。コンクリートの劣化により、天井から落下の危険がある箇所が存在したこともあり、安全性の確保が課題となっていたとのことでした。

4. 観光と学び

観光では、姫島のジオパークを訪れました。参加した理科の教員は特に興味を持ち、地質や地形の成り立ちについて熱心に観察していました。姫島の地質は独特であり、火山活動による地層の形成など、理科教育の観点からも大変興味深いものでした。

また、島内観光ではレンタル電気自動車を利用しました。環境に優しい移動手段であることから、持続可能な観光のあり方についても考える機会となりました。さらに、姫島の歴史や産業について学びました。島内ではワークシェアリングの制度が導入されており、地域の人々が協力し合いながら生活を維持している様子が印象的でした。特に、漁業や農業などの伝統産業を支える仕組みがどのように機能しているかを知ることができ、持続可能な地域社会の在り方について考えさせられる機会となりました。

5. まとめ

今回の姫島旅行は、単なる親睦旅行にとどまらず、学校の課題について語り合い、専門家の知見を共有し、地域の持続可能なとりくみを学ぶ場ともなりました。参加者一同、楽しい時間を過ごしながらも多くの学びを得ることができました。今後もこのような機会を大切にし、職場内の親睦とともに、教育や地域づくりについて考える場を作っていきたいと思ひます。